

高齢者介護施設における居住を支える物理的環境要素に関する研究 ～介護職員へのアンケート調査を通して～

キーワード：特別養護老人ホーム、居住環境、
物理的環境要素、介護職員

石井研究室 林 瑞紀

1. 研究の背景と目的

超高齢社会の現在および今後、認知症や要介護者の対策は急務の国家的課題である。その中で、重度の要介護者および認知症高齢者の介護と生活の場となる介護保険施設「特別養護老人ホーム」とその居住環境の整備は建築計画的にも大きな課題でもある。適切な介護とともに、適切な物理的環境を構築することで、より質の高い生活を保障することになると考える。

本研究の目的は、要介護者や認知症の人の生活と行動を支え、その生活の安定に資する「物理的環境要素」を明らかにし、今後の施設計画に援用することにある。介護施設の中でも特に要介護度が重度の人が多く暮らす特別養護老人ホームを対象として、居住者にとって必要な、また意味のある「物理的環境要素」を抽出し、明らかにする。特に本調査では、認知症や要介護の居住者の近くで介護にあたり、その生活や行動を最もよく理解していると考えられる介護職員の目を通して、一人ひとりの居住者にとっての「物理的環境要素」を抽出し、分析することで、今後の施設計画につながるヒントを得ようとするものである。調査手法としては新しい試みである。

2. 調査対象と調査方法

調査は、介護において空間や物理的な環境要素の重要性を十分に意識・認識している介護職員に調査する必要がある。そこで本調査では、質の高い介護を実践していることから厚労省が定める研修施設に認定されている特別養護老人ホームに勤務する介護職員を対象として調査を実施した。（一社）日本ユニットケア推進センターの実地研修施設の介護職員に対して、入居者と物理的環境との関係に関するエピソード事例について記述回答を求めるアンケート調査を行った。調査は2017年12月に実施し、最終的に計12施設の介護職員36名から回答を得て、合計49事例のエピソードを収集した。

3. 調査結果

3-1 物理的環境要素の抽出

調査の流れと分析の手法を次ページに示す。収集したエピソードを分析し「物理的環境要素」を抽出した。それらを内容によって6つのカテゴリーに分類した。入居者の居場所や生活と関わりを持つ場所を示す「施設内空間要素」、入居者のモノを示す「入居者所有物」、施設が所有している家具や備品などを示す「施設所有物」、動線や家具の配置等を示す「空間構成要素」、入居者が生

活する上で影響を与える音や光などを示す「音・光環境要素」、景色や植物を示す「自然・景色要素」である。以下、それぞれの要素の具体について記す。

3-2 施設内空間要素

「施設空間」は全40種、延べ466個抽出できた。抽出された要素全体の53%を占める。内訳は「居室」71個で最も多く、「リビング」57個、「ユニット」48個など入居者の生活の中心となる空間が多い。

3-3 入居者所有物

「入居者所有物」は全48種、延べ160個抽出できた。要素全体の18%を占める。内訳は「タンス」22個、「物」22個、「仏壇」11個、「家具」11個である。入居者の身近にあり愛着のある物、思い出のある物が多くを占め、居室だからこそ持ち込める私有物が多いことが分かる。

3-4 施設所有物

「施設所有物」は全31種、延べ54個の抽出できた。要素全体の16%を占める。内訳は「ソファ」42個、「椅子」17個、「ベッド」11個、「テーブル」11個、「テレビ」10個などである。日常生活で使用する家具類が多い。

3-5 空間構成要素

「空間構成要素」は全13種、延べ25個抽出できた。要素全体の6%を占める。内訳は「設え」21個、「配置」8個、「位置」7個などであり、ユニット内の家具に関する記述が多い。

3-6 自然・景色要素

「自然・景色要素」は全9種、延べ25個抽出できた。要素全体の3%を占める。内訳は「植物」5個、「花」5個、「植木」4個、「外の景色」4個などであり、植物や窓から眺められる景色が多かった。

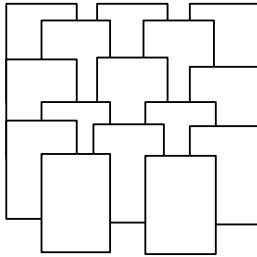
3-7 音・光環境要素

「音・光環境要素」は全6種、延べ30個抽出できた。要素全体の4%を占める。内訳は、「声」18個、「日の光」4個、「音楽」4個であり、入居者にとって安心感を与える要素として取り上げられた事例が多かった。

4. まとめ

介護職員からみた入居者にとって重要な「物理的環境要素」を抽出し、分類した。施設計画につながる重要なヒントがあると考えられ、調査手法の妥当性も確認した。今後の課題としては、実際の施設空間の分析、アンケート調査を踏まえての現地での介護職員へのヒアリング調査など、より詳細な分析と考察が必要となろう。

① アンケート依頼



12施設、計36名の介護職員にアンケートを依頼して、49事例を回収した。

③ 物理的環境要素の抽出

A施設の事例

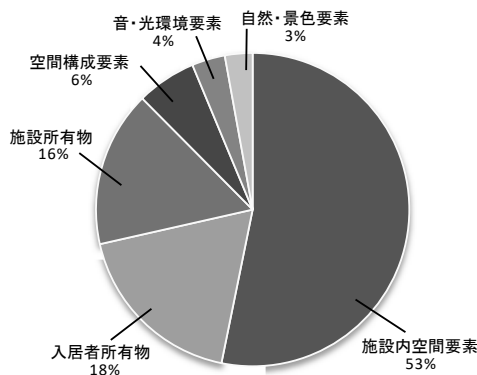
光、居室、和室、リビング、居室、リビング、歩行器、椅子、テーブル、居室、格子、配置、居室内、家具、配置、物、仏壇、居室、仮の仏壇、仏壇、仏壇、花、個室、空間、狭い空間、個人の空間、他者の物、自分の居場所、居室、リビング、動線、居室、リビング、リビング、椅子、居室、仏壇、居室内、

B施設の事例

施設、ユニット、リビング、ユニット、設え、畳のスペース、ソファ、テレビ、空間、声、くつろぎスペース、食事の席、食事の席、畳のスペース、トイレ、トイレ、いつもの場所、

自由記述から入居者と施設で関わりを持つ物理的環境要素を抽出してゆく。(事例文の下線部分)

⑤ 要素別に見たデータ数の割合



② アンケート収集(A施設、B施設の事例)

A施設

性別: 女性 介護度: 4 認知症: あり 移動方法: 独歩

・両目の視力は光が判別できる程度
・居室は和室でリビングから一番近い居室
・リビングまで歩行器で移動
・リビングの所定の椅子、テーブルは居室を出て、格子を伝って歩いてすぐに配置
・居室内の家具の配置などは理解し、手探りで物を判別
・仏壇を大切に、居室にも仮の仏壇を持参していた
・毎朝、夕に仏壇へ手を合わせるのが習慣(仏壇に供える花は職員に依頼して購入していた)

① 個室という空間

狭い空間、個人の空間であるからこそ、視力がなくても、他者の物を使用したり、自分の居場所が分からなくなるといったトラブルはなく、遠慮なく自由に生活ができる。

② 居室がリビングに近いこと

リビングまでの動線が短く、安全な移動環境

視力がなくても入居者の意志で自由に居室とリビングを行き来できる。不安になったり用事があれば、リビングへ出かけ、椅子に座っている。「ここにいれば、誰かが来る」という安心感がある。

③ 居室に仏壇を持参できること

心のよりどころでもあった仏様が居室内に設置できる環境が入居者にとって非常に重要であり、生活するうえでの心の支えとなっていた。

B施設

性別: 女性 介護度: 3 認知症: あり 移動方法: 独歩

・入居して3年目の方で、入居前に施設では家に帰ると施設外に出て行ったという経歴がある。

・入居してからユニット外への散歩に行かれるなど落ち着いてリビングで過ごすこともあまりなかった。

・ユニットの設えで畳のスペースにソファを置き、テレビを見るような空間を作り、散歩から戻られた時はそこで過ごしてもらいように声をかけた。

・2年目まではくつろぎスペース以外にも食事の席など他入居者との相性が悪く変更をしていた時は、散歩に行かれることが多く感じた。

・食事の席での他入居者との折り合いもつき1年ほどかけてなじみの相手ができてくると「××さんがいるから私も休もうかな。」とご自分で畳のスペースへ行き休まれる時間が増えた。

・仲の良い方の姿が見えなくなると落ち着かず「××さんはどこへ行った?」と探されたり、その方がトイレに行くのを見ると、トイレに行かれたりといつもの場所で安心できるメンバーがいるということで落ち着かれるのかと感じた。

アンケート内容は入居者の性別、介護度、認知症の有無、移動方法、入居者と施設とのエピソードを自由記述で回答してもらう形式をとった。

④ 物理的環境要素の分類と集計

施設内空間要素(個数) 合計40種466個

居室(71) リビング(57) ユニット(48) 部屋(47) 施設(29) 空間(26) 居場所(24) トイレ(19) くつろぎスペース(17) 自宅(16) 廊下(11) 個室(11) 畳スペース(10) 喫茶コーナー(10) 中庭(8) 談話室(6) 事務所(6) 個人スペース(5) 玄関(5) ユニット型特養(4) セミプライベートスペース(4) キッチン(4) 和室(3) 地域交流センター(3) キッズスペース(3) プライベートスペース(2) 多床室(2) セミパブリックスペース(2) 食事スペース(2) 有料老人ホーム(1) パブリックスペース(1) テラス(1) テキスペース(1) 全室(1) 寝室(1) 食堂(1) 従来型特養(1) 共有スペース(1) 大きな建物(1) 縁側(1)

入居者所有物(個数) 合計48種160個

タンス(22) 物(22) 仏壇(11) 家具(11) テレビ(10) 鏡台(6) 椅子(6) めいぐるみ(5) 車いす(5) ソファ(4) 作品(4) 洗濯物(3) 洋服(3) 荷物(3) 写真(3) 電子ピアノ(3) 化粧品(2) ワープロ(2) ウィッグ(2) 台(2) お菓子(2) 冷蔵庫(2) タオル(2) 電子レンジ(1) DVDデッキ(1) お皿(1) 布団(1) チェスト(1) カラーボックス(1) 造形(1) 絵(1) トースター(1) 机(1) コーヒーカップ(1) 箸(1) コップ(1) 茶碗(1) 飲み物(1) DVD(1) ホームベーカリー(1) プリンタ(1) スリッパ(1) ポイントカード(1) シルバーカー(1) くし(1) ひきだし(1) ティッシュ(1) 歩行器(1)

施設所有物(個数) 合計31種141個

ソファ(42) 椅子(17) ベッド(11) テーブル(11) テレビ(10) 浴槽(6) パーテーション(4) こたつ(4) 家具(4) 掃き出し窓(3) 新聞(3) 雑誌(3) 窓(2) 手すり(2) エレベーター(2) 棚(2) 洗面台(1) 障子(1) 簾(1) ついたて(1) 格子(1) 炊飯器(1) 滑り止めマット(1) シンク台(1) シャワーチェア(1) お皿(1) トランプ(1) 本(1) 小さな本棚(1) 内鍵(1) コンクリート柱(1)

空間構成要素(個数) 合計13種54個

設え(21) 配置(8) 位置(7) 向き(4) 動線(3) レイアウト(2) 死角(2) 平屋建て(2) 間取り(1) 床(1) カウンター角(1) 入口(1) 鉄筋コンクリート造(1)

自然・景色要素(個数) 合計9種25個

植物(5) 花(5) 外の景色(4) 田んぼ(2) 山(2) 水槽(1) 畑(1) 風景(1)

音・光環境要素(個数) 合計6種30個

声(18) 日の光(4) 音楽(4) 騒音(2) テレビからの音(1) ラジオからの音(1)

12施設49事例で抽出した「物理的環境要素」を分類した結果、上記の6要素に分類することができた。集計した結果、147種、延べ876個のデータが得られた。

図. 調査の流れと分析の手法